

グラフで見る景気予報

【今月の景気判断】

景気は回復を続けている。海外景気の回復を背景に輸出が拡大し、生産も増加している。企業収益が回復し、設備投資が拡大を続けている。賃金は伸び悩んでいるが、雇用が持ち直し、所得環境は緩やかに改善している。消費者マインドの改善は一服しているが、個人消費は底堅い。住宅投資は昨年末からの増加基調が一服している。公共投資は減少基調が続いている。

【今月の景気予報】

	3ヵ月前～	現況	～3ヵ月後		3ヵ月前～	現況	～3ヵ月後
景気全般	↗		→	輸出	↗		→
個人消費	↗		→	輸入	↗		↗
住宅投資	→		↘	生産	↗		→
設備投資	↗		↗	所得	→		→
公共投資	↘		↘	雇用	↗		→

(注) 1. 3ヵ月～、～3ヵ月後は変化の方向感(改善、横這い、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・低金利と大型減税の効果が剥落する米国経済。引き締め策がとられている中国経済。
- ・生産が拡大しているが、一部品目で在庫が増加しているデジタル関連需要。
- ・中東情勢と原油価格。米国大統領選の行方。

～本レポートについては最終ページ【景気予報ガイド】参照。

【各項目のヘッドライン】

ページ		8月のコメント	7月のコメント
3～4	景気全般	景気は回復を続いている	同左
5	生産	増加基調が続いている	同左
6	雇用	改善している	同左
6	所得	伸び悩んでいる	同左
7	個人消費	堅調に推移している	同左
8	住宅投資	前年度並みの水準を維持	同左
8	設備投資	増加基調が続いている	同左
9	公共投資	減少している	同左
9～10	輸出・輸入	輸出・輸入ともに増加している	同左
11	物価	下げ止まっている	同左
12	国内金利	レンジ内での動き	長期金利は急上昇
12	米国金利	長期金利は落ち着いた動き	長期金利は上昇
13	国内株価	下落後もみあい	堅調に推移
13	米国株価	軟調に推移	横ばい圏内で推移
14	為替	7月末にかけてはドル高	ドル安傾向で推移
14	金融	マネーサプライは緩やかに増加	同左

【前月からの変更点】

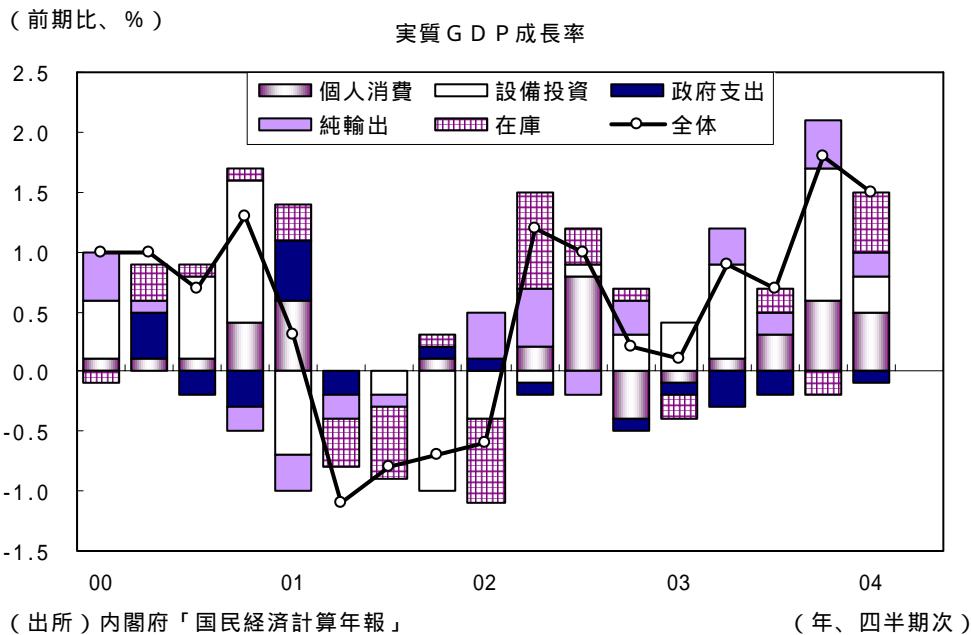
~特記事項無し。

【主要経済指標の推移】

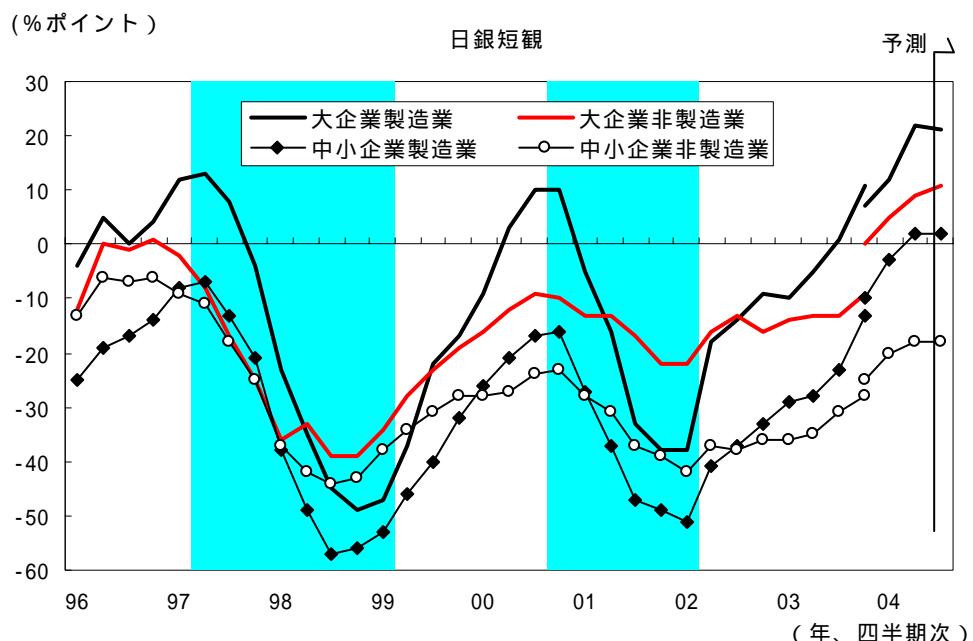
景気	経済指標	03 10-12	04 1-3	04 4-6	04 2	04 3	04 4	04 5	04 6	04 7
全般	実質GDP(前期比年率)	7.3	6.1							
	短観業況判断(大企業製造業)	7	12	22			21<9月予想>			
	(大企業非製造業)	0	5	9			11<9月予想>			
	(中小企業製造業)	-10	-3	2			2<9月予想>			
	(中小企業非製造業)	-25	-20	-18			-18<9月予想>			
	景気動向指数(先行指数)	72.2	75.0		91.7	75.0	65.0	70.0		
	景気動向指数(一致指数)	87.9	68.2		72.7	50.0	45.0	70.0		
	全産業活動指数(除く農水業)	1.5	2.5		2.8	2.5	3.7	1.4		
	第3次産業活動指数	1.8	2.4		2.6	1.9	3.3	1.0		
	生産	鉱工業生産(季節調整済、前月比)	3.9	0.5	2.7	-3.8	0.6	3.5	0.8	-1.3
雇用	鉱工業出荷(季節調整済、前月比)	4.1	0.0	2.8	-4.5	0.1	4.0	1.3	-1.4	
	鉱工業在庫(季節調整済、前月比)	-1.2	-0.3	2.0	0.7	0.3	1.4	-1.8	-0.2	
	所得	失業率(季節調整済、%)	5.1	4.9	4.6	5.0	4.7	4.7	4.6	4.6
個人消費	雇用者数(前年差、万人)	44.0	60.0	110.0	24.0	15.0	57.0	55.0	-2.0	
	現金給与総額	0.9	-1.7	-1.2	-0.4	-2.9	0.1	-0.6	-2.4	
	実質消費支出(勤労者世帯)	0.2	3.0	4.0	6.9	-0.5	7.2	5.6	-1.3	
	平均消費性向(季節調整済)	73.6	73.2	75.4	73.6	73.1	76.9	72.8	76.6	
住宅投資	家電販売額(大型店)	0.8	-1.1	-2.2	2.8	-8.6	-3.6	0.4	-3.3	
	百貨店販売高・東京	-4.9	-2.6	-4.1	0.3	-5.6	-3.0	-3.0	-6.1	
設備投資	新設住宅着工戸数(季節調整済、千戸)	1175	1208	1155	1173	1197	1117	1169	1179	
	(前年比、%)	3.2	5.4	-3.7	1.9	6.9	-4.1	0.9	-7.4	
公共投資	機械受注(民需/除船電、季節調整済、前月比)	8.5	-5.6		2.8	-3.2	11.8	-2.1		
	(同前年比)	18.2	1.8		9.3	0.2	16.9	8.8		
外需	公共工事請負額	-16.9	-18.8	-10.4	-10.5	-22.7	-8.8	-23.2	-2.2	
外需	通関輸出(金額 [△] - [△] 、円建て)	4.0	11.7	13.3	10.3	13.2	10.8	9.8	19.4	
	通関輸出(数量 [△] - [△])	7.3	13.1	14.1	12.0	14.2	13.2	10.5	17.9	
	通関輸入(金額 [△] - [△] 、円建て)	-0.5	4.2	8.9	-0.9	12.3	6.6	5.0	15.4	
	通関輸入(数量 [△] - [△])	7.1	8.8	6.1	3.1	17.6	10.2	-0.3	10.0	
	経常収支(前年差、百億円)	395.1	503.9		214.9	184.2	158.3	171.1		
	貿易収支(前年差、百億円)	372.0	353.3		154.8	134.1	126.4	113.4		
物価	企業物価指数(国内)	-0.4	0.1	1.0	0.0	0.2	0.6	0.9	1.4	
	消費者物価指数(除く生鮮)	0.0	-0.1	-0.2	0.0	-0.1	-0.2	-0.3	-0.1	
	原油価格(WTI期近物、\$/b)	31.2	35.3	38.3	34.5	36.7	36.6	40.3	38.1	40.8
金融	マネーサプライ(M2+CD、平残)	1.5	1.7	1.9	1.7	1.7	1.9	2.0	1.8	
	貸出平残(銀行+信金)(前年比、%)	-5.0	-5.0	-4.3	-4.4	-4.2	-4.0	-3.6	-3.7	
市場データ(期中平均)	無担保コール翌日物(%)	0.00105	0.00062	0.00069	0.00079	0.00100	0.00024	0.00083	0.00100	0.00033
	ユーロ円TIBOR(3ヶ月)(%)	0.08460	0.08861	0.07952	0.08833	0.08812	0.07917	0.07917	0.08023	0.08996
	新発10年物国債利回り(%)	1.379	1.311	1.596	1.245	1.355	1.505	1.487	1.772	1.797
	FFレート(%)	1.00	1.00	1.01	1.01	1.00	1.01	1.00	1.03	1.27
	米国債10年物利回り(%)	4.26	3.99	4.58	4.06	3.81	4.32	4.70	4.72	4.47
	日経平均株価(円、期中平均)	10677	11715	11619	11042	11715	11762	11236	11859	11326
	日経ジャスダック平均株価(円、期中平均)	1417	1762	1984	1546	1762	2043	1874	2035	1900
	ダウ工業株価指数(ドル、期中平均)	10453.9	10357.7	10283.2	10583.9	10357.7	10225.6	10188.5	10435.5	10139.7
	ナスダック株価指数(ドル、期中平均)	2003.4	1994.2	1984.9	2029.8	1994.2	1920.2	1986.7	2047.8	1887.4
	円相場(¥/\$、東京市場17:00時点)	106.97	103.95	109.56	109.08	103.95	110.44	109.56	108.69	111.67
	円相場(¥/\$、東京市場17:00時点)	133.71	127.23	132.43	135.85	127.23	131.82	133.89	131.58	134.52
	ドル相場(\$/ユーロ、東京市場17:00時点)	1.25	1.22	1.21	1.25	1.22	1.19	1.22	1.21	1.20

1. 景気全般 ~ 景気は回復を続いている

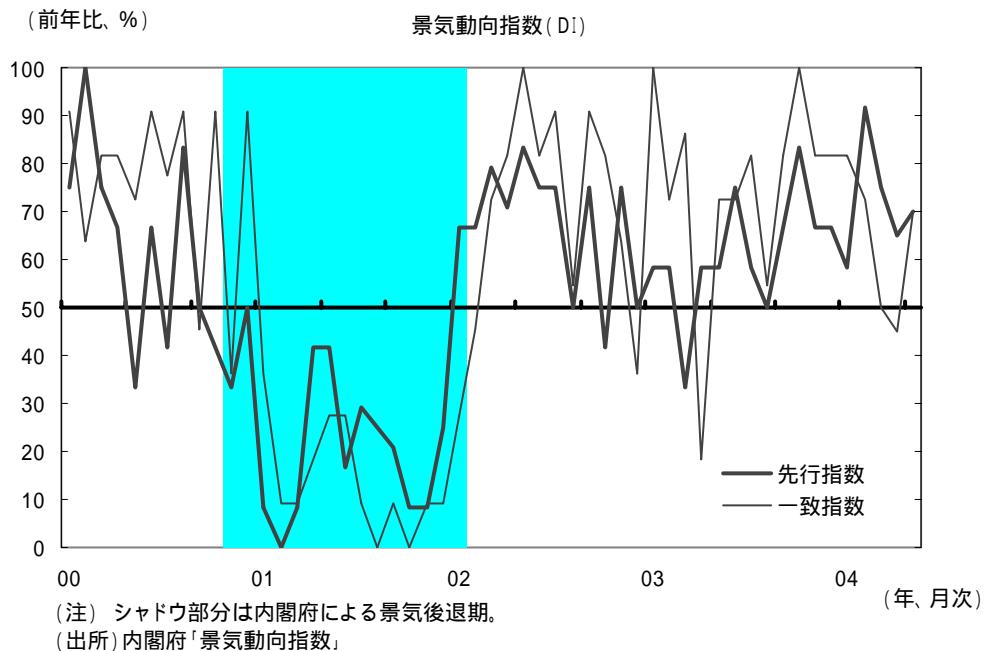
~ 1-3月期の実質GDP成長率は前期比 +1.5% となった。個人消費は同 +0.5% とプラス寄与が続いた他、設備投資も 7期連続のプラス寄与となり、内需寄与度は同 +1.3% となった。外需寄与度も、輸出が輸入を 6期連続で上回り、同 +0.2% となった。



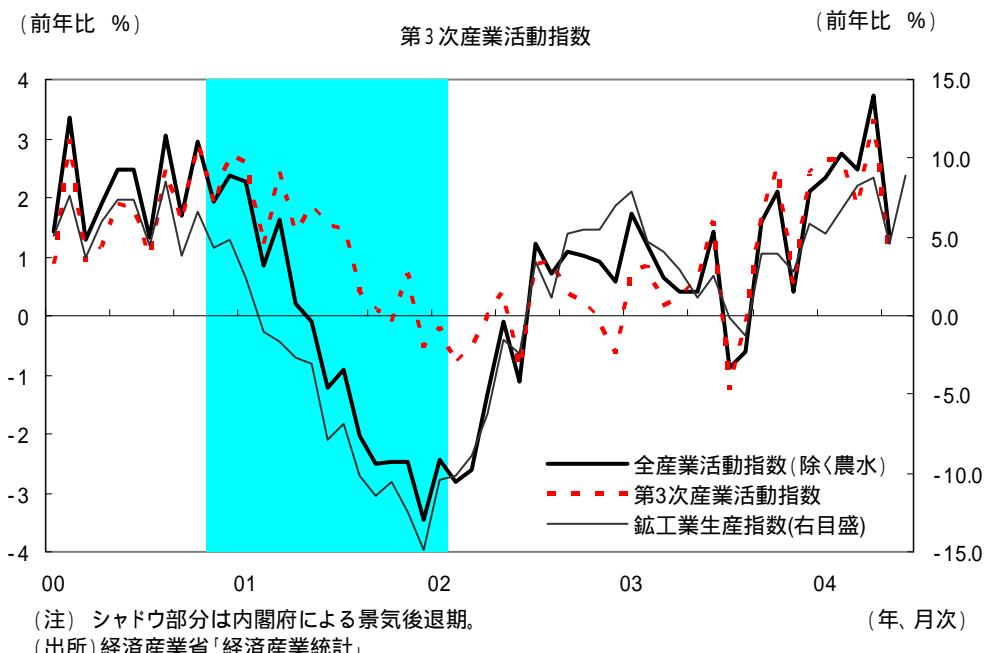
~ 6月調査の日銀短観では、業況判断DI(「良い」-「悪い」)が、製造業、非製造業ともに改善した。景気回復を背景に企業の景況感改善が続いている。先行きについては、製造業・大企業が1ポイントの悪化、中小企業では製造業、非製造業とも横ばいを見込んでおり、慎重な見方が多い。



~ 景気の動きに一致する一致指数は、5月は70%となった。景気が良いか悪いかを判断する目安となる50%を引き続き上回っており、足元でも経済活動の拡大が続いていることが示された。景気の動きに数ヶ月先行する先行指数も5月は70%となり、先行きの経済活動の拡大継続を示唆している。

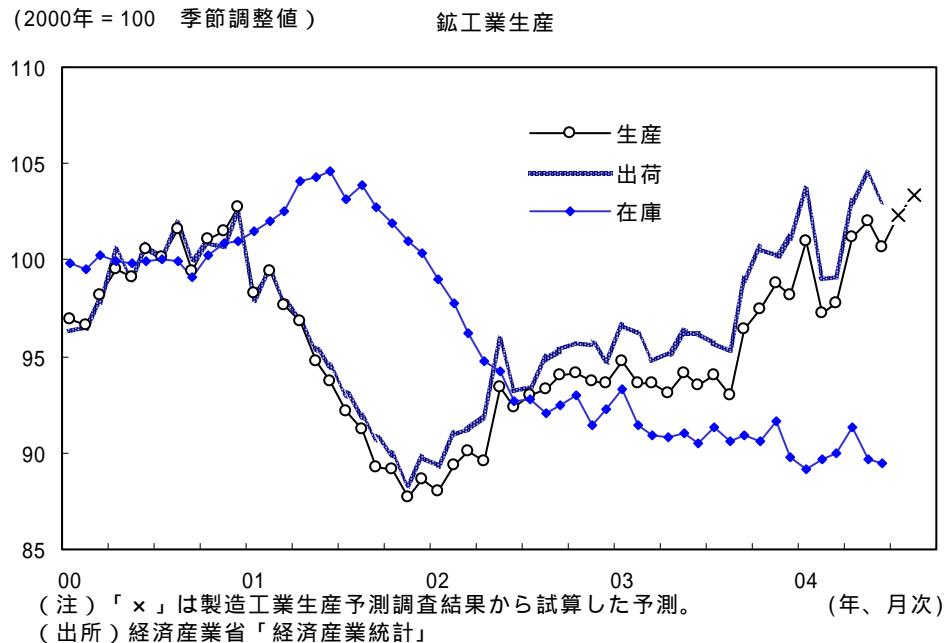


~ 4月の第3次産業活動指数は前年比1.0%と9ヶ月連続で前年比プラスを維持したが、伸び率は鈍化した。前月比では-1.0%で2ヶ月ぶりのマイナスとなった。個人消費、生産活動とも堅調であり拡大基調は維持できそう。4月の全産業活動指数は前年比1.4%と9ヶ月連続で前年比プラスとなったが、前月比では-0.7%と2ヶ月ぶりにマイナスに転じた。

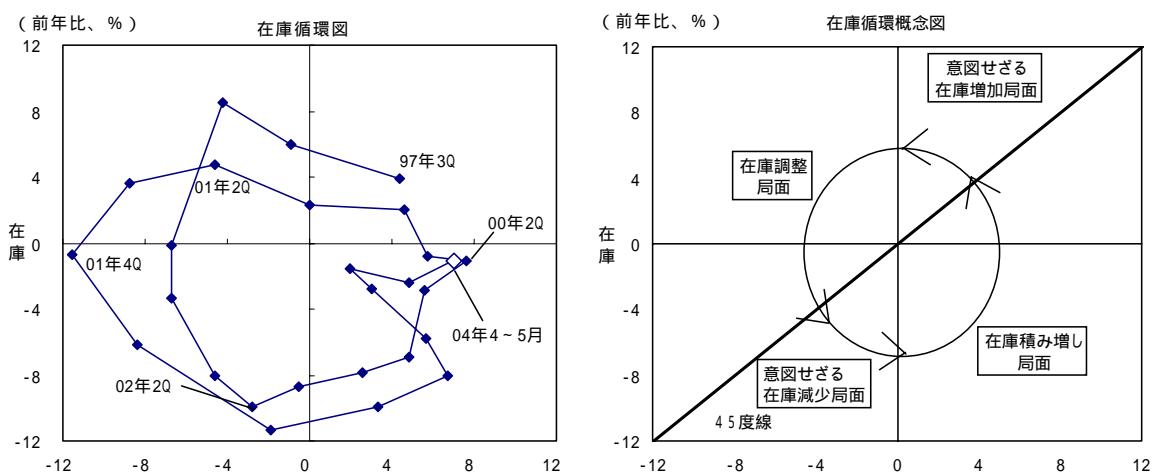


2. 生産 ~ 増加基調が続いている。

~ 6月の鉱工業生産は前月比 -1.3%と4カ月ぶりにマイナスに転じたが、7、8月の予測指数がプラスとなっており（それぞれ前月比1.6%、1.0%）、増勢は続く見込みである。4～6月期では前期比+2.6%で、1～3月期の同+0.5%を大きく上回った。在庫は2カ月連続で前月比減少しており、企業の在庫積み増しに慎重な姿勢は続いている。

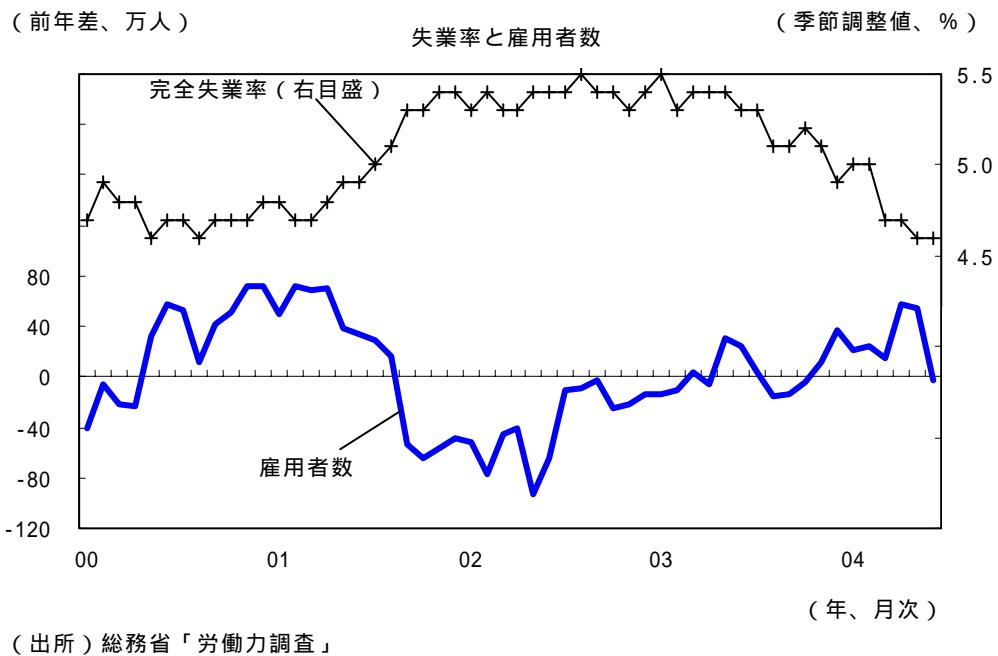


~ 在庫循環図をみると、2004年4～6月期は出荷増・在庫減の段階にとどまっている。出荷が引き続き順調に伸びているのに対し、在庫の積み増しは進んでいない。



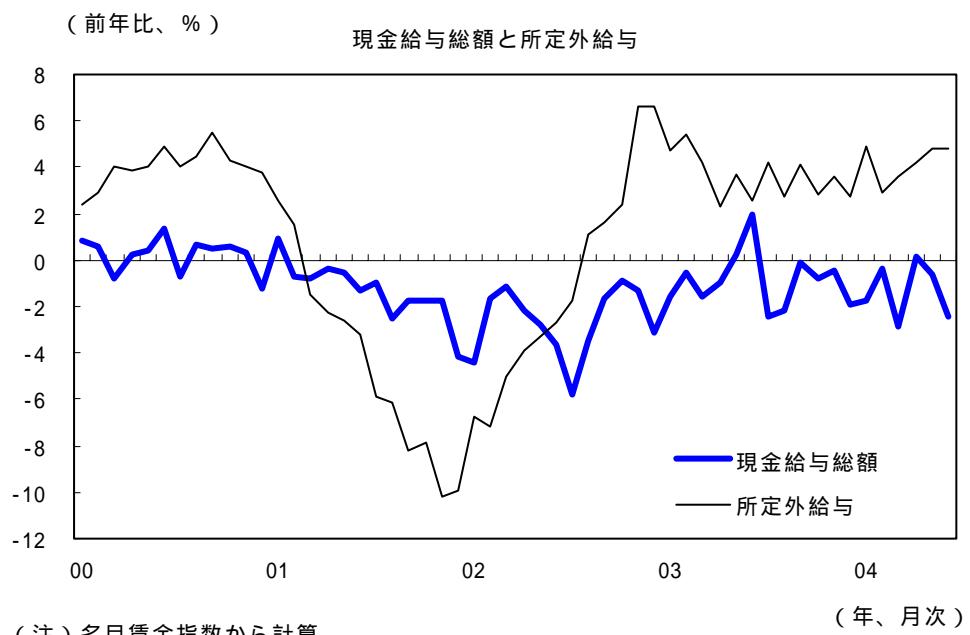
3.雇用 ~改善している

~ 6月の雇用者数は前年比 - 2万人と8カ月ぶりに減少となった。雇用者数の減少は、臨時雇や日雇を中心としたもので、常用雇用者はなお増加傾向を維持しており、雇用の改善が続いていると判断される。完全失業率も4.6%と横ばいとなった。



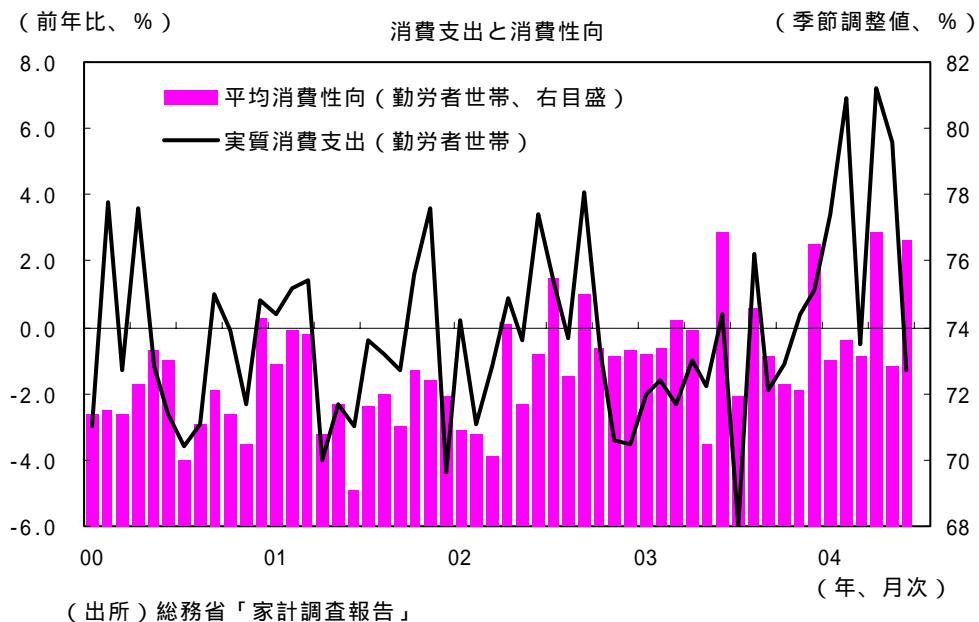
4.所得 ~伸び悩んでいる

~ 6月の1人当たり現金給与総額は前年比 - 2.4%と伸び悩みが続いている。生産の増加にともなって所定外給与は増加傾向にあるものの、パートタイム比率の上昇もあって所定内給与や特別給与が弱い動きとなっている。

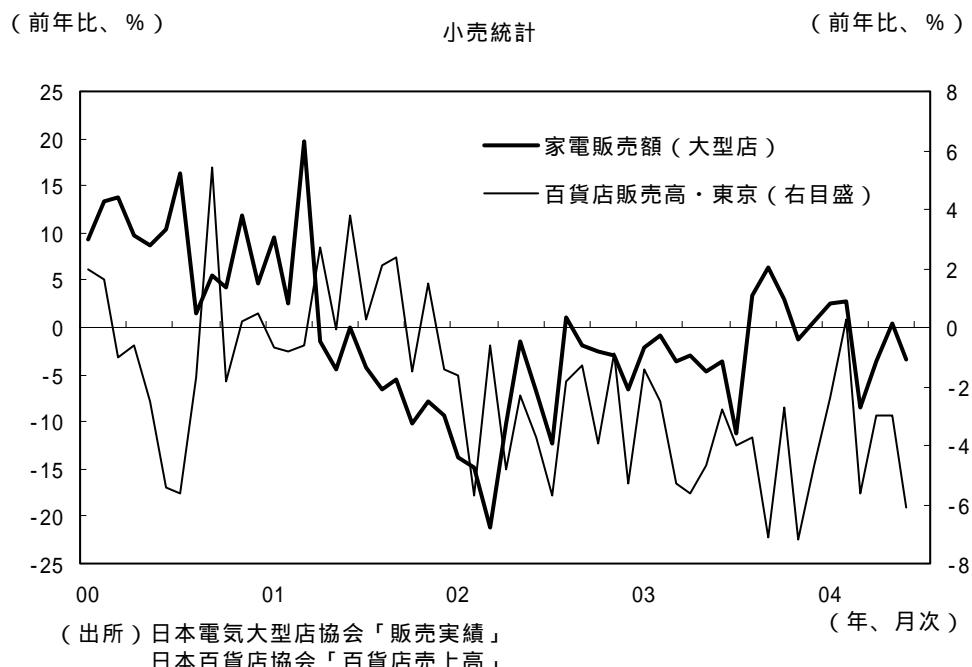


5. 個人消費 ~堅調に推移している

~ 6月の実質消費支出（勤労者世帯）は、前年同月比 -1.3%と3ヵ月ぶりの前年割れとなった。ただ平均消費性向が76.6%と高水準を維持するなど、雇用環境の改善を背景に消費は堅調に推移している。

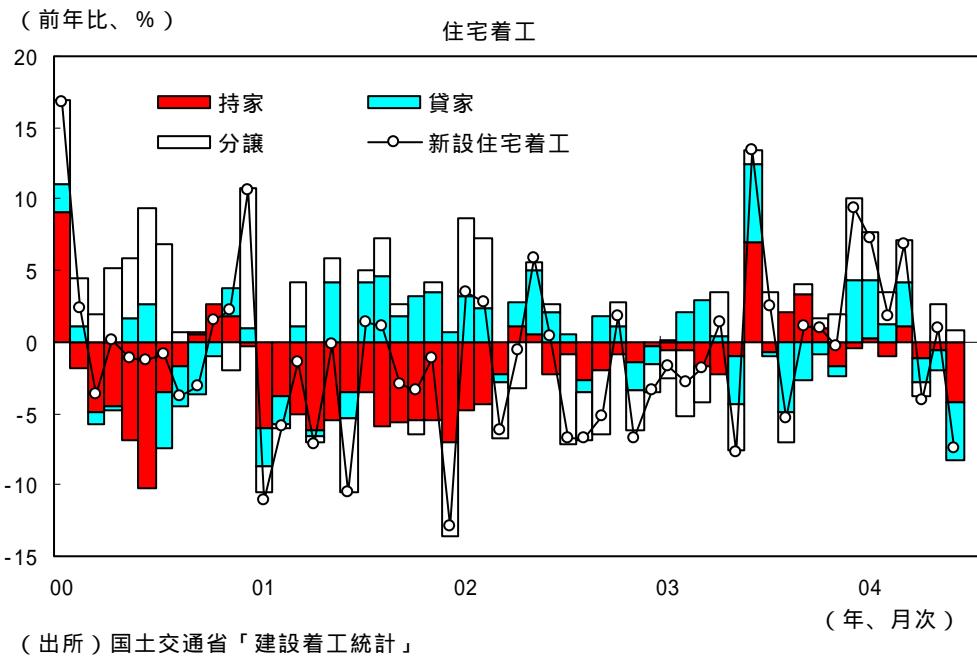


~ 6月の家電販売額（大型店）は、前年同月比 -3.3%と、再び前年割れ。DVD、テレビに加えエアコンも大幅に拡大したが、PCなど他家電は減少基調で推移している。6月の百貨店販売額（東京）は同 -6.1%と大きく減少した。前年に比べ日曜日が1日少なかったことなどが影響している。



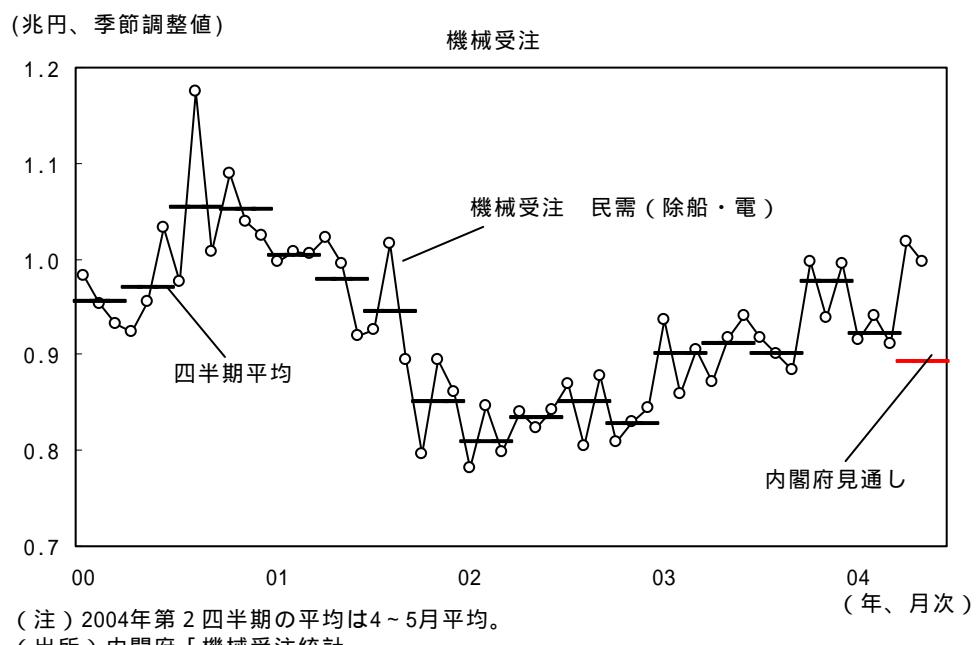
6. 住宅投資 ~前年度並みの水準を維持

~ 6月の着工は、前年の建築基準法改正に伴う駆け込みの反動で前年比 - 7.4%と大幅に減少した。しかし季節調整値は、ほぼ前月並みと、横ばい圏での推移が続いている。今後は、分譲の拡大鈍化に伴い、全体の伸びは縮小へ向かう見込みである。



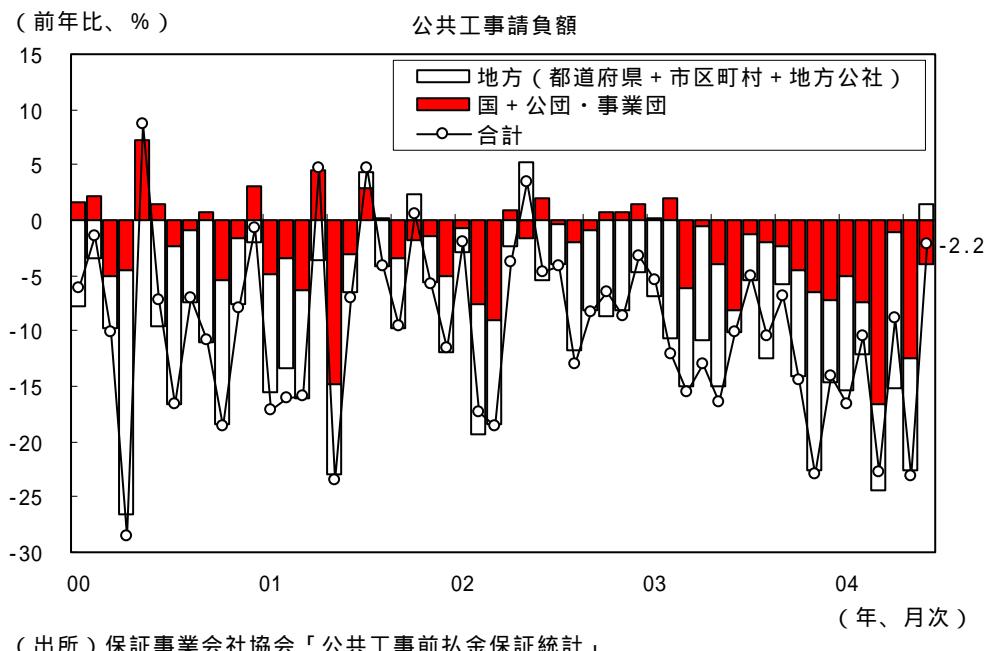
7. 設備投資 ~増加基調が続いている

~ 5月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は前月比 - 2.1%と2カ月ぶりに減少したが、依然として高水準を維持している。4~6月期の機械受注は内閣府見通し(前期比 - 3.2%)を上回り、前期比増加となる可能性が高い。機械受注は設備投資に1~2四半期程度先行するため、今年度前半の設備投資は堅調に増加する見込みである。



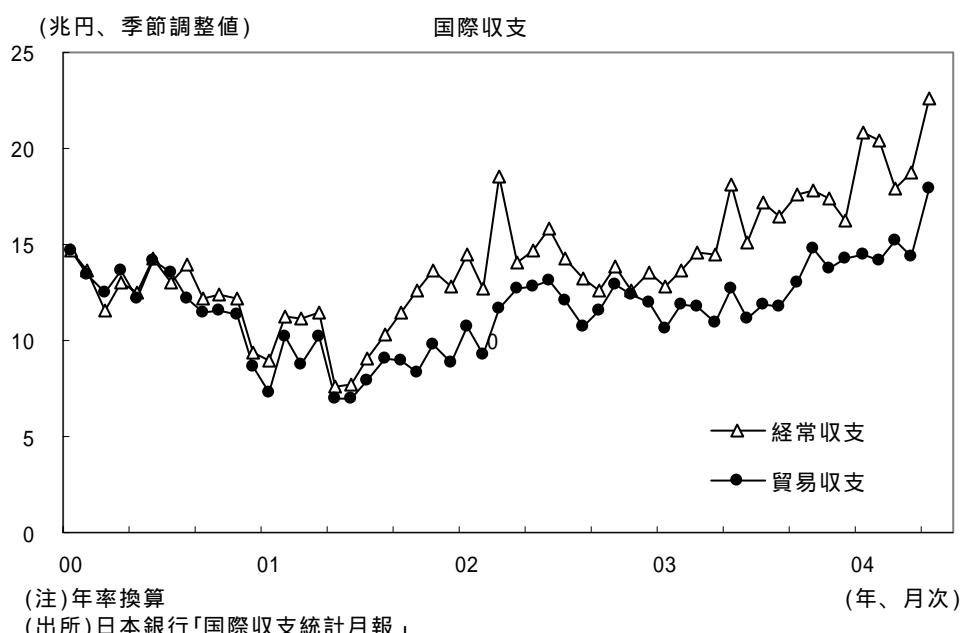
8. 公共投資 ~ 減少している

~ 6月の公共工事請負額は前年比 -2.2%と、マイナス幅が急縮小した。落ち込みが続いていた地方の工事が約2年ぶりに増加したことが主因である。ただし、公共投資に関する予算は国、地方とも削減が続いている。6月の受注額の改善は一時的なものとみられる。工事額は今後も減少基調で推移する見込みである。

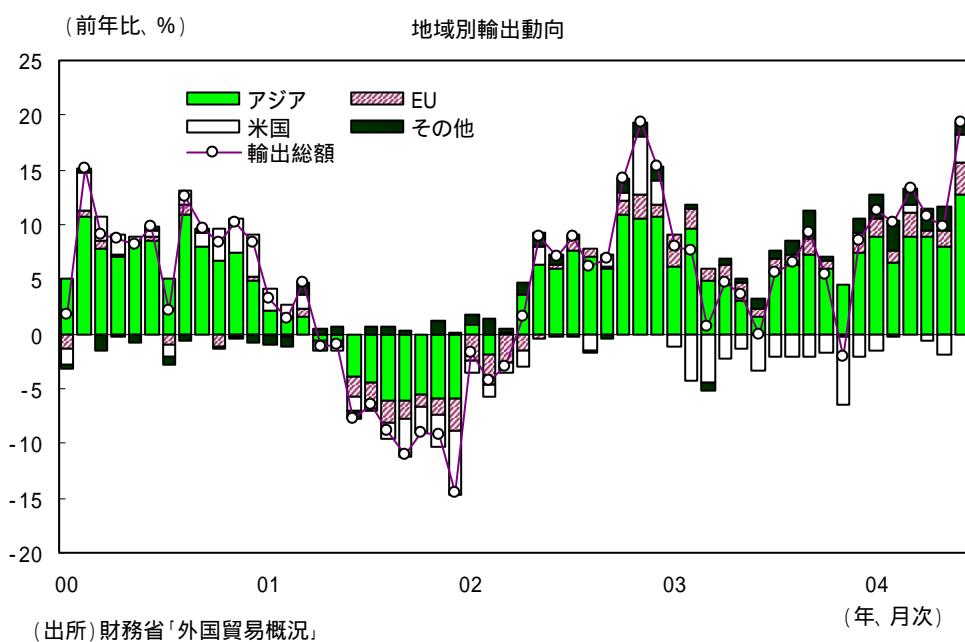


9. 國際收支・輸出入 ~ 輸出・輸入ともに増加している

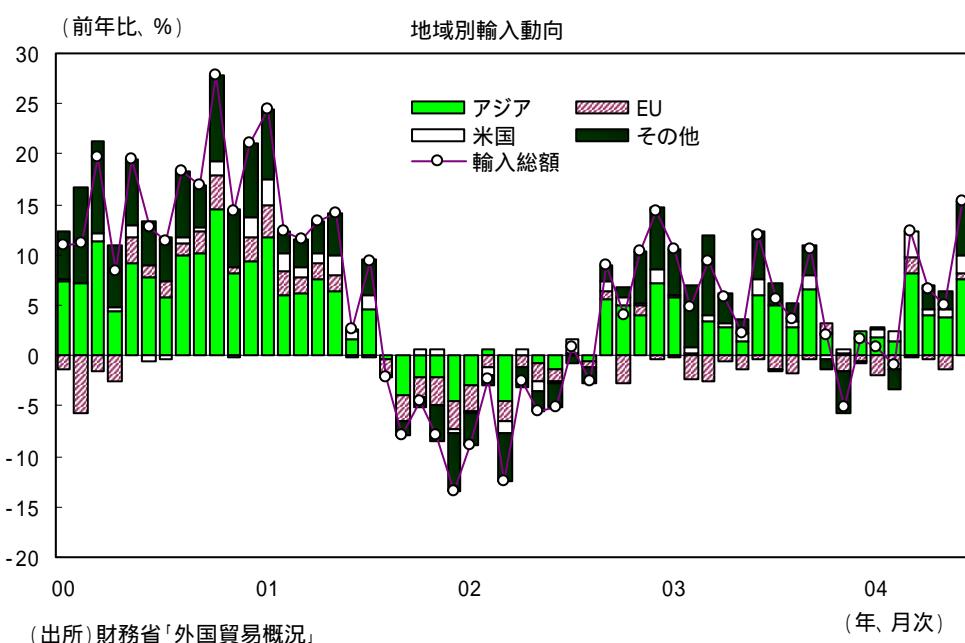
~ 経常収支黒字は拡大傾向で推移しており、足元では年率換算すると20兆円レベルに達している。今後黒字幅は輸入の増加により頭打ち傾向となり、年末にかけては輸出の鈍化により縮小に転じると見込まれる。



~ 6月の輸出金額は前年比 +19.4% となった。海外景気の回復を背景に輸出は高い伸びが続いている。特にアジア向けが全体を牽引している。ただし年末にかけて、中国の引き締め政策や米国の減税効果一巡の影響がマイナス要因として懸念される。

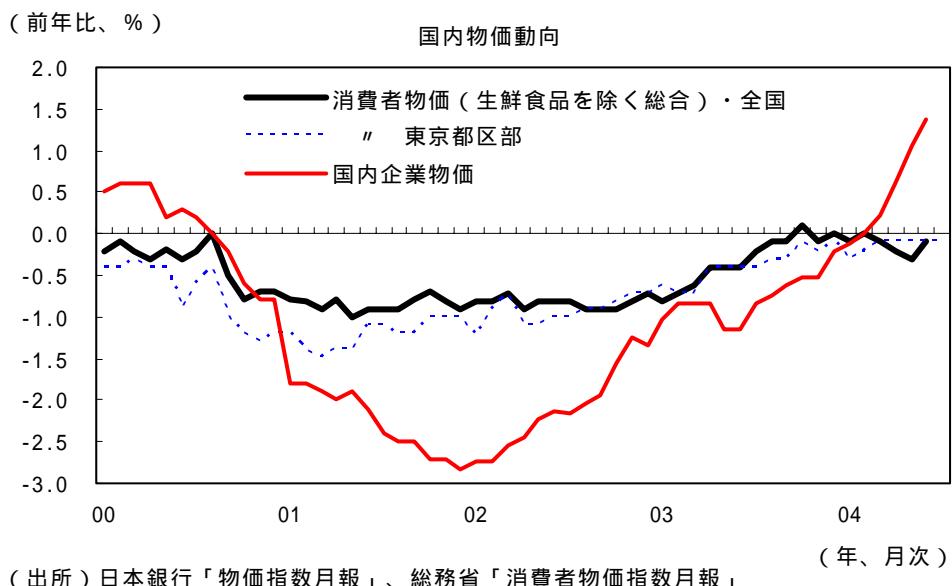


~ 6月の輸入金額は前年比 +15.4% となった。国内景気の回復を受けて輸入の伸びは高まってきている。AV機器、衣料品、生活用品などの消費財が対アジアを中心に伸びている。原油や素材の価格上昇も押し上げ要因となっており、当面、増加基調が続くとみられる。

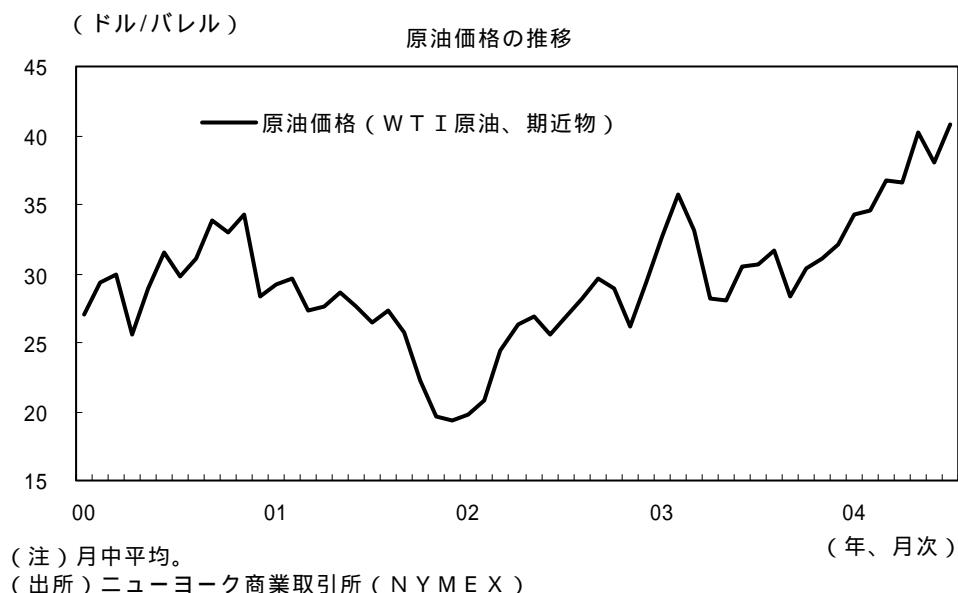


10. 物価 ~ 下げ止まっている

~ 6月の国内企業物価は前年比 +1.4% と原油はじめ国際商品市況高騰の影響を受け上昇幅が拡大している。ただし、消費者物価は横ばいの動きとなっており、価格転嫁の動きは限定的である。

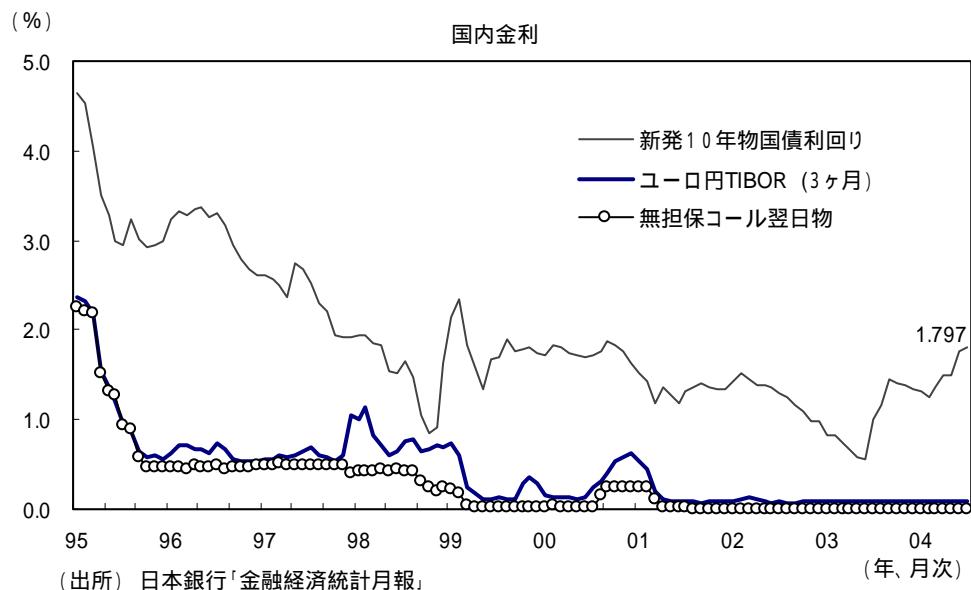


~ 原油価格は、米国や中国を中心とした需要拡大、地政学的リスクの高まりなどから7月末には上場来最高値となる43.80ドルを記録しており、高騰が続いている。



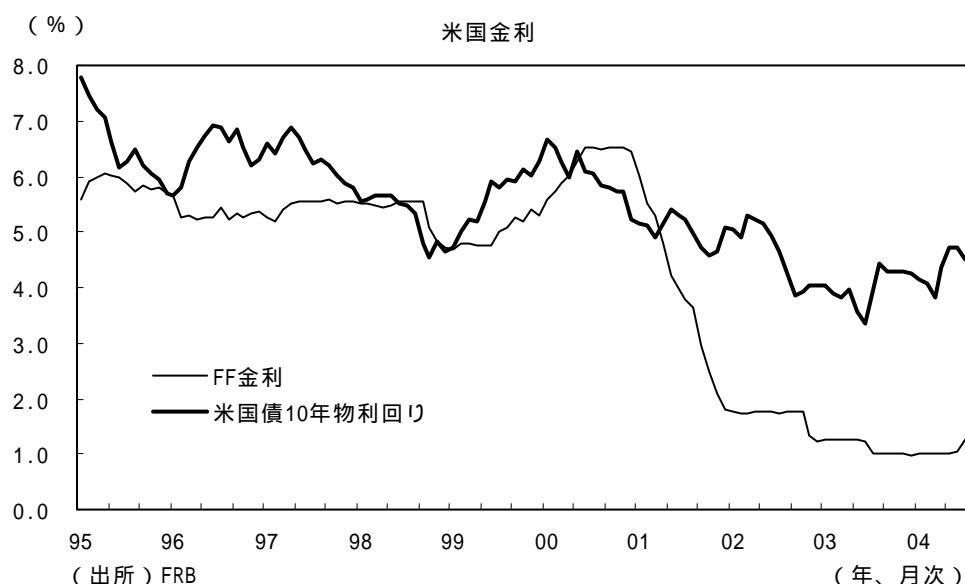
1 1 . 国内金利 ~レンジ内での動き

~短期金利は、日銀の金融政策に変更がないことから低位での推移が続いている。9月末越要因もほとんどみられない。長期金利は、景気の拡大を背景とした最近の上昇が一服し、レンジ内での動きとなっている。新発10年債利回りは、6月半ばに2000年11月以来の高水準となる1.9%台まで上昇したが、株価の伸び悩みもあって買戻され、7月に入ってからは1.8%近辺での小動きにとどまっている。



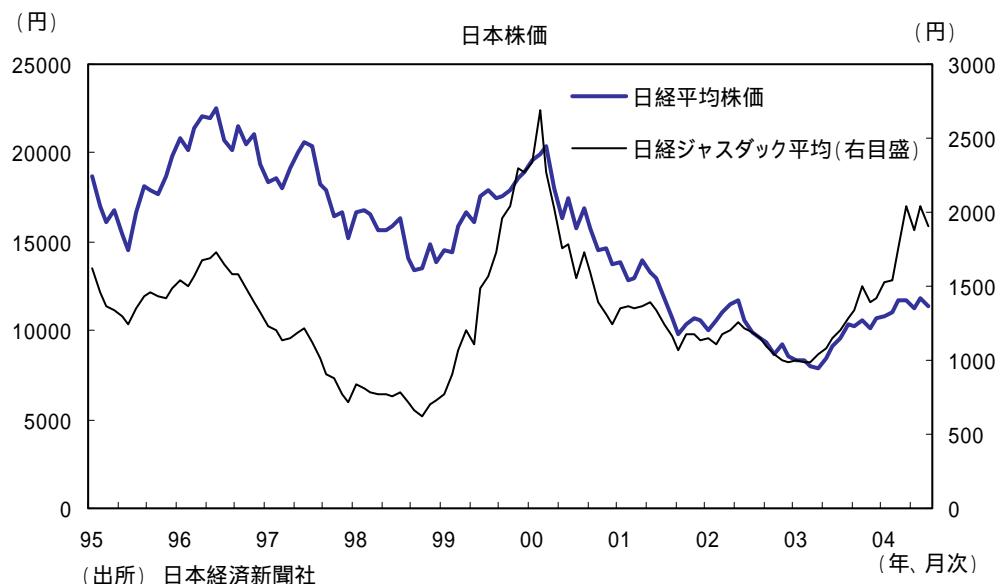
1 2 . 米国金利 ~長期金利は落ち着いた動き

~F R B は6月末、FF金利の誘導目標を0.25%引き上げ、年1.25%とすることを決定。8月10日のF O M C でも追加的な利上げが実施されるとの見方が多い。長期金利は、景気減速を示す経済指標の発表などを受けて、4.5%前後の落ち着いた動きとなっている。



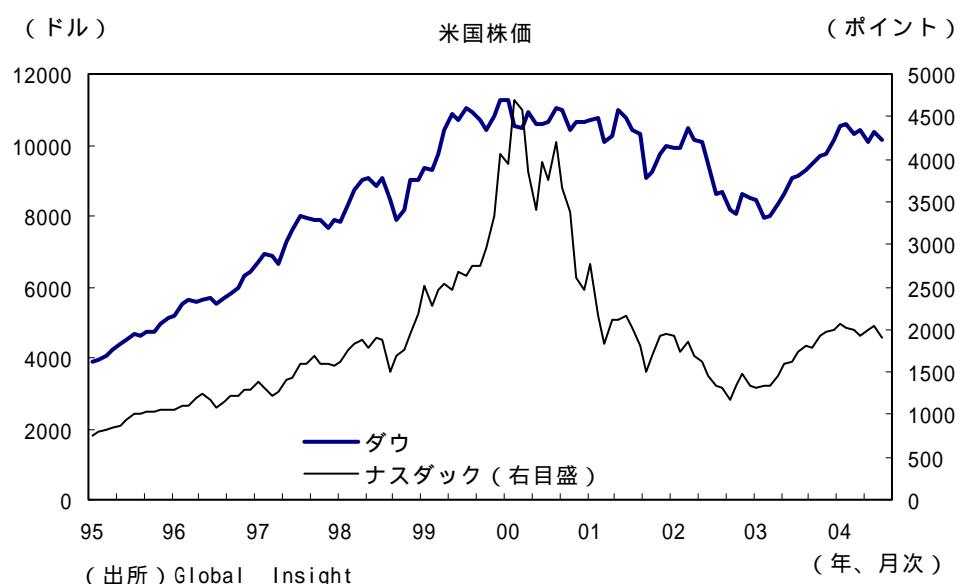
13. 国内株価 ~下落後もみあい

~日経平均株価は、順調な景気回復を受けて6月中は堅調に推移し、7月初めに12,000円近辺まで上昇した。しかし、米国株の下落、利食い売り、参議院選を控えての警戒感から弱含みに転じ、7月半ば以降は11,000円台半ばでのもみあいが続いている。一方、店頭市場である日経ジャスダック平均株価は堅調な推移している。



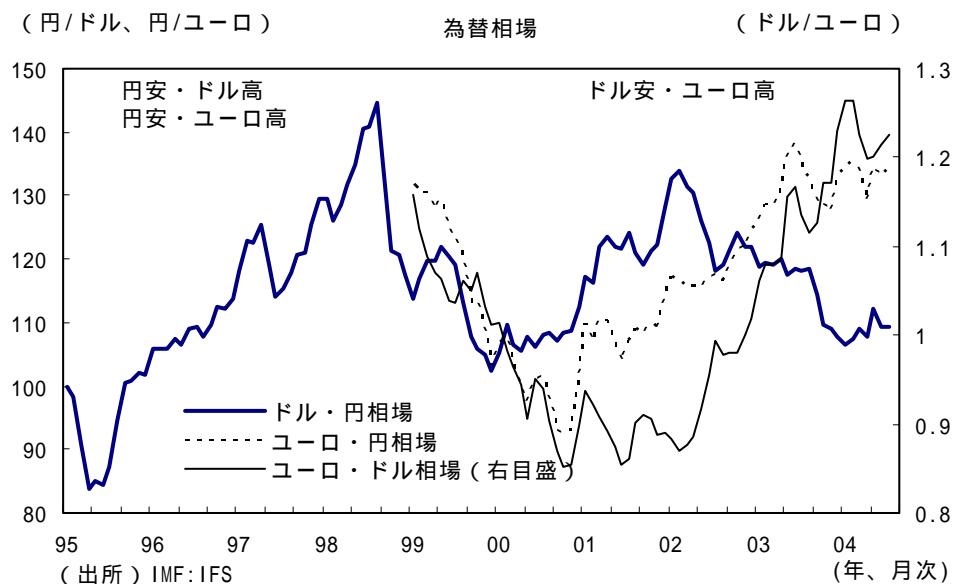
14. 米国株価 ~軟調に推移

~株式市場では、減税効果の一巡に伴う景気の減速や先行きに対する懸念などから株価は7月に入ってから、軟調に推移。当面は、ハイテク関連企業の先行きの業績や雇用の回復テンポに左右されやすい状況が続く。



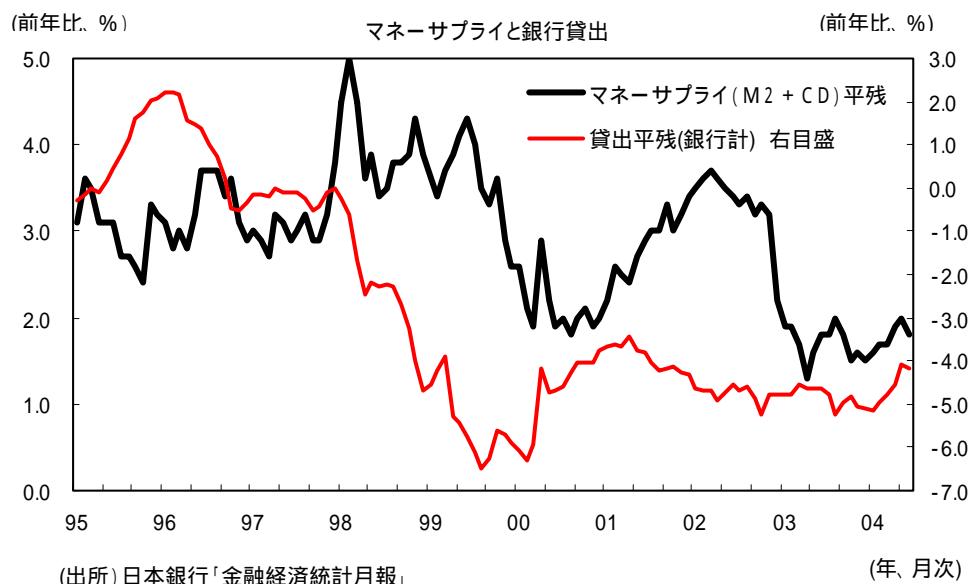
15. 為替 ~ 7月末にかけてはドル高

~ 為替市場では、米国景気の減速などを背景にドル安傾向。ただし、7月末にかけては、8月のFOMCでの利上げ観測が強まる中で、ドルが円やユーロに対して買い戻されドル高が進行。先行きの米国の利上げのテンポが焦点の一つになっている。



16. 金融 ~ マネーサプライは緩やかに増加

~ 6月のマネーサプライ ($M2 + CD$) は前年比 +1.8% となり、2004年1月以来続いている伸び率拡大の動きは一服した。6月の銀行貸出残高は前年比 -4.2% と、98年1月以降78ヶ月連続で前年比マイナスとなった。このところマイナス幅は徐々に縮小していたが再拡大した。貸出減少に歯止めがかかるおらず、マネーサプライは緩やかな伸びにとどまる見込みである。



~ 本レポートに掲載された意見・予測等は資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

【主要経済指標発表予定表（8月）】

<月次>

発表日	時間	経済指標名	対象月	発表機関	本レポートに掲載されている指標	分類	グラフ（頁）
2（月）	10:30	毎月勤労統計（速報）	6月	厚生労働省	現金給与総額、所定外給与	所得	6
2（月）	14:00	新車登録台数	7月	自動車販売連合会		個人消費	-
5（木）	14:00	景気動向指数（速報）	6月	内閣府	先行指数、一致指数	景気	4
6（金）	14:00	家計調査（全世帯）	6月	総務省		個人消費	-
9（月）	8:50	マネーサプライ（速報）	7月	日銀	M2+CD	金融	14
9（月）	14:00	機械受注	6月	内閣府	機械受注（民需除く船舶電力）	設備	8
11（水）	8:50	国際収支	6月	財務省・日銀	経常収支、貿易収支	外需	9
11（水）	8:50	企業物価指数（速報）	7月	日銀	国内企業物価	物価	11
13（金）	13:30	鉱工業生産（確報）	6月	経済産業省	鉱工業生産、出荷、在庫指数	生産	5
中旬		百貨店販売（東京）	7月	日本百貨店協会	百貨店販売高（既存店）	個人消費	7
中旬		公共工事請負額	7月	保証事業会社協会	公共工事請負額	公共投資	9
下旬	8:50	貿易統計	7月	財務省	地域別輸出入額	外需	10
20（金）	8:50	第3次産業活動指數	6月	経済産業省	第3次産業活動指數、全産業活動指數（除く農林水産業）	景気	4
25（水）		家電販売額	7月	日本電気大型店協会	家電販売額（大型店）	個人消費	7
27（金）	8:30	消費者物価				物価	11
		・全国	7月	総務省	消費者物価（生鮮食品を除く総合）		
		・都区部（速報）	8月				
27（金）	8:30	家計調査（勤労者世帯）	7月	総務省	平均消費性向、実質消費支出	個人消費	7
27（金）	8:30	労働力調査	7月	総務省	完全失業率、雇用者数	雇用	6
31（火）	8:50	鉱工業生産（速報）	7月	経済産業省	鉱工業生産、出荷、在庫指数	生産	5
31（火）	10:30	毎月勤労統計（速報）	7月	厚生労働省	現金給与総額、所定外給与	雇用	6
31（火）	14:00	建築着工統計調査報告	7月	国土交通省	新設住宅着工戸数	住宅	8

<四半期次>

発表日	時間	経済指標名	対象月	発表機関	本レポートに掲載されている指標	分類	グラフ（頁）
13（金）	8:50	GDP速報（QE）	4-6月	内閣府	実質GDP成長率	景気	3

景気予報ガイド

【グラフで見る景気予報とは？】

毎月弊社より発表していた「グラフで見る景気概況」を全面改訂したもの。

景気全般～金融の16項目について、毎月同じグラフを用いて解説している。

【今月の景気】

レポート発表時における弊部の景気判断。【今月の景気予報図】における各項目の現況をもとに総合的に判断。下線部は前月からの（景気判断の）変更点。

【今月の景気予報図】

3カ月前～・・・3カ月前～現況の「方向感」を、改善、横這い、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、曇り、雨の3段階に分類。

～3カ月後・・・現況～3カ月後の「方向感」を、改善、横這い、悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3カ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目点】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全16項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

左端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報図において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

ヘッドラインに記載されている市場データ（為替・金利・株価）については記載せず。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【主要経済指標発表予定表】

主要経済指標に掲載されている指標を中心に、今後の発表予定を掲載。

以上